

令和4年度 第1回佐賀市男女共同参画審議会報告書

開催日時 令和4年8月23日(火) 13時30分から15時00分

開催場所 佐賀市役所本庁舎2階 庁議室

会議の公開又は非公開の別 一部非公開

出席者

(委員) 小城原 直委員、加藤 雅世子委員、草場 栄美委員、草場 真智子委員、
菖蒲 庸子委員、高橋 朋子委員、椿原 伸好委員、名和田 陽子委員、
西村 邦孝委員、野口 剛志委員、福田 京子委員、藤野 真也委員、
宮原 克法委員、吉岡 剛彦委員 (14人)

(事務局) 市民生活部 片渕部長、久富副部長、
人権・同和政策・男女参画 北御門課長、男女共同参画室 南雲副室長、内田主査
子育て支援部 こども家庭課 香月副課長

欠席者

(委員) 福成 有美委員 (1人)

傍聴者 無し

取材 無し

- 1 開 会
- 2 辞令交付
- 3 あいさつ
- 4 委員紹介
- 5 会長・副会長の選出

会長に吉岡剛彦委員、副会長に草場栄美委員が選出された。

6 議 題

(1) 令和3年度男女共同参画事業について(報告)

(2) 令和4年度男女共同参画事業計画について

(事務局) 資料2に沿って、令和3年度男女共同参画事業の内容を説明

引き続き、資料3に沿って、令和4年度男女共同参画事業計画を説明

(委員) 政治参画セミナーに関わった。車椅子利用者から悩み事について発言があったり、高校生が勉強の一環で参加し、クオータ制の話が出たりして、参加者からいろいろな意見が聞くことができた。また、議員の仕事が少しわかった、確認ができた、というようなアンケートの答えもあった。参加者は40人程だったが、開催してよかったと思っている。

(委員) 令和3年度の事業報告は多いが、令和4年度の事業計画が令和3年度に比べて少なくなっている。コロナの影響か。

(事務局) 事業はむしろ増えている。報告には、日付や内容が入るため、分量が増える。数的には、前年度と同様、それに加えて、中学1年生の授業に対する先生の研修、LGBTQ+の啓発、6月のプライド月間の啓発が加わった。アマゾンとの実証実験も増えた事業となっている。

(委員) 広報紙「ばすぽーと」の編集委員もしている。できれば今日、他の委員にも内容を見てもらいたかった。次の審議会のときには新しく発行される号を配ってほしい。内容について、SDGsの中の「ジェンダー平等を実現しよう」でシリーズ化して、中学校の制服の問題や、ジェンダーギャップ指

数のことについていろいろ書いているが、ぜひ、委員からも意見をいただきたい。この広報誌の存在をまだ知らない人がいたら、役所などの広報誌のコーナーに置いてあるので、ぜひ1度、見てほしい。

(事務局) 発行している「ぱすぽーと」の最新2号分は、今日、配布したい。

(委員) 今年度もDVの啓発は富士大和温泉病院職員を対象に行っているが、昨年度も対象者は同じだった。対象者が限定されているが、それを広げるような考えはあるのか。

(事務局) 配布資料には掲載していないが人権啓発の中で行っているものがある。また、学校で先生方の研修等もあっているが数等を把握していない関係でここに記載をしていない。職員の研修もあっており、この後、計画の進捗報告の中で今年度の予定等を説明する。その中で研修に触れる部分がある。

(委員) 同居している父に認知症の症状があり、毎日DVのようなことを言う。今日も母をととてもばかにしていた。おそらく、昭和一桁時代の人はそのように配偶者に接してきたのだと思う。シルバー会などでも、DVについての研修をやってほしい。

(委員) 昭和の始めに生まれた人たちは、男性女性という形で、どうしても強くジェンダーのことは言われる。新聞などでも、普段、「男性」は付かないのに「女性が」と付いていたりするものがとても多いと感じている。

DVに関しては、高齢になっても離婚の相談に来る人がいる。そのようなときは市町にも協力してもらうことがある。また、相談事業では、病気の人や介護が必要な人、高齢で少し認知症が入っている人はなかなか難しいところがある。自立支援担当に相談したり、各機関と連携したりして支援をしている。

(事務局) 配付している資料5-3の18ページの3の②、高齢者のDV被害に関する通報があったときはおたっしや本舗(地域包括センター)をはじめ関係機関と連携して、被害者の安全を確保する、という計画もあるため、このようなところも活用していただきたい。

(3) 令和4年度各種審議会等における女性委員の参画率について(報告)

(事務局) 資料4に沿って、令和4年度各種審議会等における女性委員の参画率の内容を説明

(委員) 女性委員の参画率について、全体としては43%で目標達成しているが、一部の審議会などでは女性委員の数がゼロか少ないという状況がある。どの審議会も重要だが、生活に身近な問題の審議会でも女性委員が少ない場合があり、課題であると思う。

(委員) 女性からの意見も幅広く、いろいろな人の意見を踏まえるということでの数値目標は提示してあるが、関係審議会等々から、「女性が増えて有効な意見が出た」や、「男女が参画することで今まで出ていなかったような意見が出た」という声を聴取していないか。そのような事例があれば、「こう

いう団体では、こういう意見が出て活発になったようだ」や、「取組の方向性が変わったようである」という進捗報告をフィードバックでき、そのような仕組みがあったほうが、お願いばかりになるよりはいい。推進の目安として数字は必要だと認識はするが、活動がしっかり根付いていっているという確認にもなるし、アイデアをもらえらると思う。

(委員)それは重要な視点だと思う。

(事務局)確かに、「女性が入ったことによって、今まで気付かなかった目線、角度から意見が出た」といったことは、時々、伺う。具体的に、「こういうことで、会議が活性化した」などを文章の中に入れて、「女性に入ってもらおうとこんなによくなる」ということを見せていくことは非常にいいことだと思う。そのような工夫は参考にしたい。

(委員)審議会でもぜひ紹介してもらいたい。一朝一夕にというわけにはいかないが、少しずつでも改善するように、引き続き継続して取り組んでほしい。

(4) 第4次佐賀市男女共同参画計画の進捗状況について (報告)

(事務局)資料5に沿って、第4次佐賀市男女共同参画計画の進捗状況を説明

(委員)進んでないところについては補足の説明があったが、既に目標を達成して順調に進んでいるところについて、計画がうまくいっているのか、それとも、そのような環境になったのか。施策がうまくいっているのであれば、うまくいっていないところに対して参考にするなどし、なぜうまくいっているのかという情報は持っているか。

(事務局)場合による。例えば、放課後児童クラブの待機児童数については、民間委託や空き教室の活用などで大幅に改善している。保育所の待機児童数については、厚労省からの指示でカウントの仕方が変わった。男性育児休業取得率について、佐賀市では子育て計画シートを所属長に提出しなければならない。なぜ育休を取らないのかという話になると、必然的に取りやすくなる。しかし、市内の幹事会で、男性も女性も育児休業を当たり前にする時代に入っていく、しかし職員の数は増えない。そうすると、所属長のマネジメント能力が非常に求められるため、研修等も必要になってくるのではないかという意見も出た。よかった事例や改善された事例は、具体的な紹介をしつつ参考にしながら進めていきたいと思う。

(委員)男性の育児休業について、職場でもぜひ取りなさいということで進められる。しかし、取ると、上司の残業時間が長くなったり、育児休暇を取っても、積極的にやるというのではなく、かえって忙しくなったという母親側の声も聞いた。それで目標を達成したというのは、考えなければいけないのではないか。

(事務局)男性が家事を手伝うと表現する間は、厳しいと感じている。主体者になるということが非常に大事だ。アマゾンとの実証実験の説明をしたが、この実験の前に「パパたちの座談会」を開催した。

0歳から3歳児の父親たち20人に集ってもらい、どんなことに困っているかということ話を話し合ってもらった。そのときに明らかになったことは、父親は子どもが生まれる時点、もしくは母親が妊娠した時点で、既に子育てに関しては情報弱者ということだ。情報がなければ主体的に関わりづらいということで、その点では母親のほうからも寄り添うことも効果があるのではないかと感じた。「パパたちの座談会」を開催したが、今後は夫婦で参加できる場を持ったり、一緒に家事育児、介護をやっていく同士という関係性を支援できるのではないかと考えた。

(委員)イクメンで佐賀が日本一であるという講義があったが、イクメンとは、家事育児を積極的にする男性のことで、「お手伝いではない」という意識に、まず変えていかなければいけないと思った。

(委員)男性の育児休業取得率は、それ自体の数値を上げていくことも必要だが、その内実、取得期間や、実際にどのような形で育児、家事に参画したかということも、どのように検証するか難しいが、加えていきたいところだ。

(委員)アマゾンの事業は、3歳以下の子どもがいるということで、もう既に生まれている状態である。妊娠がわかり、市役所に母子手帳を取りに来るタイミングで、こういう男女共同のキャンペーンや啓発活動、講座をやっているという案内を早い段階からやっておけば、「子どもが生まれるから家事もやってみようか」などの促しにつながるのではないか。子どもが生まれてからはばたばたして、研修に行きたくても自分の子どもの対応が優先になる。早め早めに、しかも自分事になった時点で、タイミングよく情報発信するような活動はどうか。

(委員)男性の取得率が上がったことは数字的には喜ばしいかもしれないが、育児休暇を取った人に「具体的にどういう状態で」ということについてアンケートはしているのか。また、育児休業を取った人の仕事を誰かがカバーすることになるが、仕事が増えたという感じで、快く思わない人はいる。しかし、とにかくそういうものはさせなければいけないということで、いろいろな指示がある。それで、本当のところはどうなのかと思っている。数字を増やさなければいけないことは分かるし、無理やりでも少しずつ前進させなければと思うが、その辺も合わせて進めていかなければいけないと思う。

あと一つ、アマゾンの実証実験はいろいろなところでされているのか。

(事務局)職場では、育児休業を取る職員に代わり会計年度任用職員が入ることになる。正規職員に比べたらできる範囲は少ないが、他の職員でカバーしている。特に男性の育児休業の場合は、短期間なので会計年度任用職員が入らないこともあり、まさに他の職員がカバーしていくことになる。育児休業を取るのが当たり前ということで運営しており、係員は5、6人で、それだけでは回らなくなるため、課全部で支え合っている。負担が生じているのが正直なところだが、それはお互いさまであると思っている。

(委員)市では会計年度職員を補充できるかもしれないが、小さい企業では無理というところはある。企業にお伺いするときは、その辺も十分理解しなければ難しい。育児休業の他にも、病気で休んだり

して、それこそお互いさまだと皆が思えばいいことで、少しずつ進めなければいけない。職場の人
も、育児休業を取る人も、本音を掘り起こしていかないといけないのではないかと思った。

(事務局) 監督・管理職の研修で、講師が、「子育てに関われないことは、自分の人生に対しての機会
損失になるという発想を職員全体に浸透させていく必要がある」と言われていた。せっかく目の前に
子育てができるチャンスがあるのに、仕事だけに専念することは、世界を狭めてしまうし、見方を狭
めてしまう。様々な角度から物事を見ることは、仕事をする上では非常に大事なことであるから、お
互いさまで支え合っていく。いろいろな人が職場にいるという、多様性を活かせる職場にする必要
があると思う。

アマゾンジャパンとしては、子育て支援に音声アシスタントを活用するということは、今回が初め
での取り組みだそうだ。佐賀市を選ばれた理由は、佐賀市長が子育ての真っただ中であることと、
DX推進、デジタルトランスフォーメーション、を活用した暮らしやすい社会づくりに取り組んでいる
こと、この2点から選ばれたと聞いている。

(事務局) まだ子どもが生まれる前のお父さんに対しては、母子手帳を発行するときに、佐賀県がつく
っている『佐賀パパポケットブック』のコピーを渡している。これは、子育てを楽しもうということと、家
事育児に積極的に関わってくださいということで、例えば、食べた後の食器は洗うところまでが必要
ですということや、掃除を「手伝おうか」じゃなくて、主体的にやりましょうとか、そういった具体的な
ルールのようなものを記したものである。もちろんこれだけでいいというわけではなく、何ができ
るか、今後も検討していきたいと考えている。

(委員) 市長が代わり、いろいろなことを期待している。若い市長のいろいろな人脈や、今までになかつ
た新しい視点で男女共同参画にも応援いただけるのではないかと思っている。市役所の職員から
も、「随分市役所が変わったよ」ということが聞こえてきたりするので、いい方向にいくようにしてほし
い。

(事務局) 先日の幹部の会議でも、参画率について、女性の活躍が必要だというコメントがあった。ま
た、男性の育休についても、市長自身が取ったことで庁内の職員に波及している。いろいろな事業
を進める上で、相談やアドバイス、意見をもらいながら進めている。皆さんのご意見もいただきなが
ら、よりいい佐賀市を目指して頑張っていきたい。

(委員) 老人介護で少し困っている。親を病院に連れて行った際、父親の介助をするために一緒に男
性トイレに入ったりする。介護しなければ、と気持ちをふるわせているが、また次に病院に行く日
になると憂鬱になる。育児も大変だが、老人の介護もいろいろ検討してもらいたい。

(委員) 男性の家事関連の時間が「30分未満」、「全くしてない」という成果目標があるが、もう少し時間
は増やせないか。成果目標は達成になっているが、30分より時間を増やしてほしい。

(事務局) 5年計画の1年目でもう達成してしまっており、数値目標としては低い見込みだったと言わざ

るを得ない。第5次計画では、もっと高い数値に持っていき、それも達成できるような努力をしていきたい。

(委員) 介護予防にもう少し積極的に力を入れてほしい。欧米では寝たきりを絶対出さないように等、いろいろな施策をやっている。支援体制じゃなくて、予防のほうにもっと力を入れて、家でもできる体操のようなことをもっと進めほしい。

また、女性の自治会長が5%もない。今、自治会で作っているハンドブックの1ページに、女性を増やすようにとはっきり書いている。それと、男性が自治会長をするということで、ずっと先の順番まで決めているところもある。以前、女性の会長が活躍している所に研修に行った。その時に、女性になって非常に活性化したという話を聞いた。女性は「今度こういうことあるから一緒に来てよ」など、声掛けが非常に多い。男性はそういうことはしない。そういうことから、女性を増やしたいと、ずっとやっているが、増えない。どうやれば増えるのか。皆さんも、周りにそういう人たちがいたら、ぜひ声かけをしてもらい、少しでも増えていけばと思っている。

(事務局) 介護予防について、資料5-3の11ページの4の①、介護予防教室における男性受講者の割合について、コロナ禍で全体の参加者数自体も400人ちょっとということで、その中で男性は43人しか受講されていない。ここも、やはり介護予防教室の受講者全体を増やしていく、そして男性にある程度の割合はしっかり入っていただくということが大事だと思う。もう一度、担当課のほうに働きかけをする。

(5) その他

なし

7 閉 会